

## 中心市街地の衰退と商業者意識に関する一考察

足利工業大学大学院 学生員 ○深沢 真吾  
足利工業大学 正会員 中川 三朗

### 1. はじめに

足利市の中心市街地の小売業を営む店舗数は毎年減少しつつある。これは、市の中心域を北西から東南へ流下している渡良瀬川で河北と河南に分化し、河南には一般国道など道路交通の利便性がよく、広面積の駐車場を有する大型店舗が進出したためである。本研究では対象地域を足利市の中心市街地（河北）とし、対象者を小売業やサービス業を営む経営者としたアンケート調査を実施した。本研究の目的は、足利市の中心市街地を訪れる人の性別や年齢を把握し、商業経営者の現状や課題に対する意識を把握して、市街地衰退の課題について考察することを目的とする。

### 2. アンケート調査の概要

#### (1) 概要

足利市の中心市街地である家富町、雪輪町、巴町、井草町、通二丁目、通三丁目、及び通四丁目の7町内を対象地域とし、その中でも足利商工会議所に加盟している小売業者やサービス業者に対して調査を実施した。配布、回収ともに郵送方式を用いて、配布は、2004年12月18日及び19日に実施し、2004年12月25日着分をもって集計を行った。配布総数は211部で、95部回収うち4部は無効で、回収率は45.0%で、有効回答率は43.1%であった。なお、分析において井草町に関する数的結果は、有効回答が3部であるため、用いないものとする。

#### (2) 調査項目

調査項目は、店舗名称、職種、客層、事業方針、自由意見の11項目とした。客層については、主に来客する性別、年齢層、観光客の占める割合とし、事業方針については事業の拡大縮小、観光客に対する対策、今後検討している活動とした。

### 3. 集計による足利市中心市街地の現状

key words ; 商業者, 中心市街地, アンケート

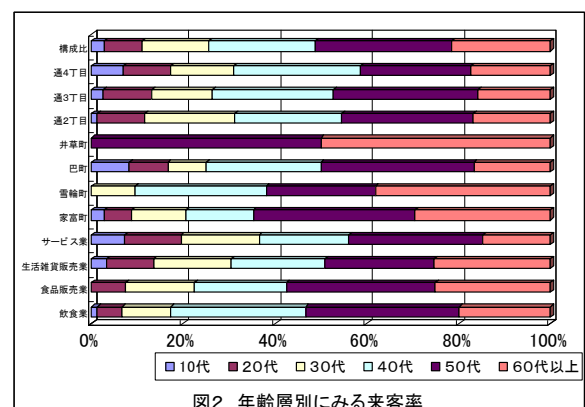
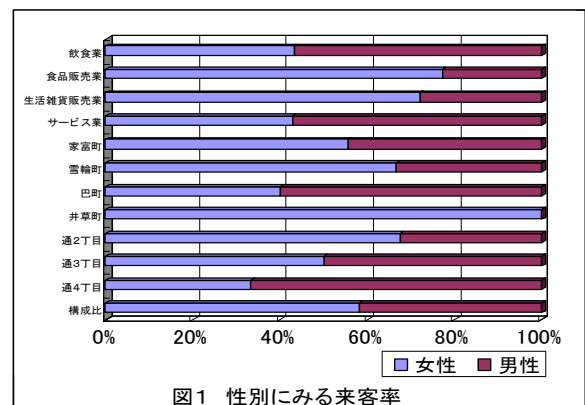
栃木県足利市大前町 268-1 tel 0284-62-0605 fax 0284-64-1060

#### 3-1 来客者の動向

来客者の性別を町内別及び職種別に見ると、女性は雪輪町と通二丁目が多く、男性は巴町と通四丁目が多い。次に職種別で見ると、女性は食料品等や食品以外の生活雑貨の販売小売業を利用している。男性は飲食業とサービス業を利用している。性別による中心市街地への来客者の割合は女性の方が僅かに多いが、偏りは見られない。(図1)

#### 3-2 年齢層別からみた来客者の動向

各町内と各職種の利用年齢層別に見ると、各町内及び各職種ともに50歳代が最も利用し、次いで60歳代以上となっている。逆に利用していない年齢層は10歳代であり、全く利用していない町内は雪輪町と巴町が該当し、利用しない職種は食料品等の販売小売業であった。各町内の来客率と各職種への来客率は40歳代以上の人々が70%以上占めており、30歳代以下の客層は少ない。(図2)



3-3 商業経営者の現状に対する意識

商業経営者が目標として見込む客種は、地元客と常連客を見込んでいる（図3）。実際に観光客が来店する割合は10%程度である（図4）。

商業経営者が観光客に対して実施している広報活動は、インターネット等の電子端末を利用や店舗の外観をより目立つような広報活動を実施している。広報活動の現状では何もしていない店舗が最も多いが、何らかの広報活動を実施している割合とほぼ同じである。（図5）。

今後観光客の対策として、実施していきたい活動内容としては、今までと同様という回答が33%以上を占めるが、周囲の商店と協力して観光客を呼び込む環境の創造を考えている意識を有している（図6）。

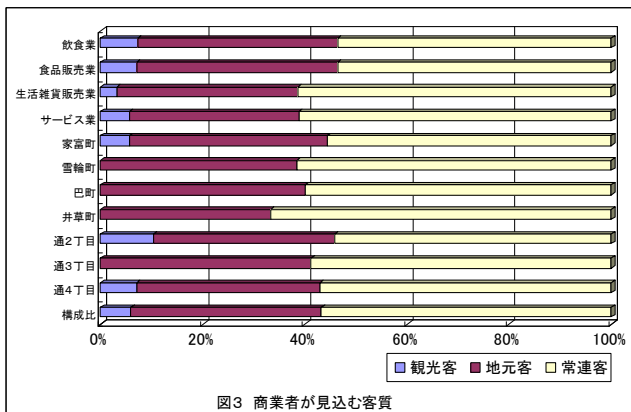


図3 業者が見込む客質

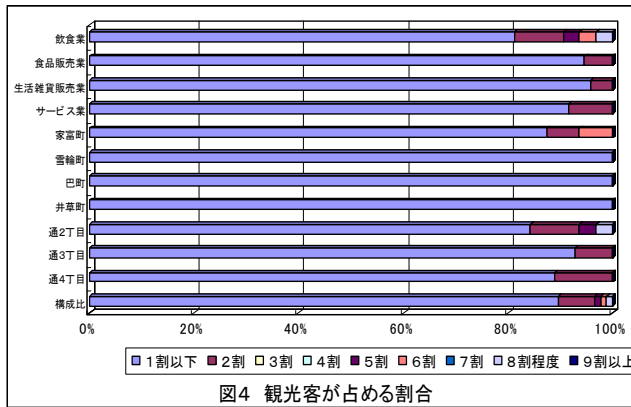


図4 観光客が占める割合

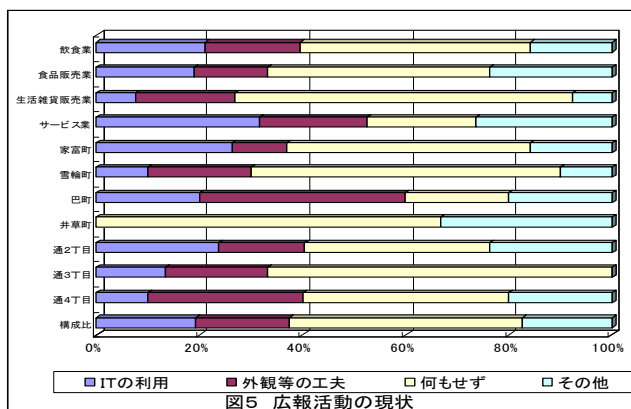


図5 広報活動の現状

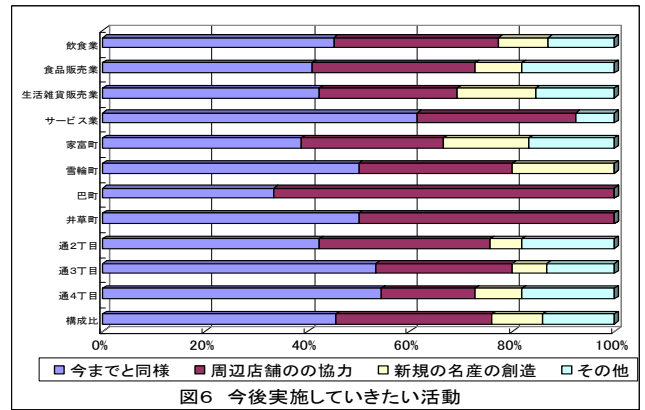


図6 今後実施していきたい活動

4. 考察

足利市に既存して生じている問題は、中心市街地の駐車場空間の問題と交通渋滞の問題が挙げられるが、当該問題に対し自由意見を設けたところ他の問題として、人の動線がない、人が住んでいない、環境の悪化、固定資産税が高い、道路交通規制される箇所が多い、空き店舗が増加、人が集まる施設がない、商店街の機能が失われている、イベント広報の不足などであった。河南に位置する各々の大型店と中心市街地の駐車場問題及び人を集める施設や空間が存在しないことが要因となって人口密度と各商業売上げは減少しつつある。さらに、足利市は周辺地域と比較して固定資産税が高いこと、各店舗が抱える個人的問題、一方通行等の通行規制問題から居住者は減少することから空き家や空き店舗が増加する。この結果から商店街が有する機能は失われつつある。

5. まとめ

足利市の商業経営者の意識として、対象として見込むことのできる客質は、地元客及び常連客であり、観光客を対象として事業を展開する意識は少ない。しかし、インターネットの電子端末機器等を利用して市外の観光客を呼び込む活動や店舗の外観等を工夫など、ソフト的ハード的の両面において活動している商業経営者は全体のうち37%程度存在している。また、今後の活動方針として他店舗との協力や新規の足利の名産物の創造など活動方針を考案している商業経営者は40%程度存在する。現状では観光客が来店すると考える意識は薄い、来店させるための事業活動は実施している。

参考文献 野辺盛道：足利市中心市街地における事業者意識に関する考察 足利工業大学卒業論文，2005.2